

寮生は幸せでした

山 本 雪 雄

中学校教育の現役時代から、御夫君武田馨先生と同職していたこともあつて、学園とも親しく、ミキ先生には敬服いたしておりました。創立された可部女專に、生徒をおくり、一か月後に母校をたずねて来校する卒業生が、実に立派なあいさつ、適切な言葉遣いができ、服装も端正で、教育なるものが形となって自然にあらわされた姿に「教育とはこれなんだ」と思わせていただきました。深い御縁により第二の人生に有難い仕事を与えていただき、学長直接の決裁や、御指導を、その都度受けながら、寮の運営がなされてまいりました。舎監という大役を、まかせていただいたことに、大きな希望と、よろこびを生み、先生の偉大な人柄、厳しく、また、あたたかな生活に接しながら、自信を得て寮経営ができたことや、これからの人生に活力を得させていただいたことに感謝いたしております。

こころ静かに生活のあれこれをおこしてみますと、学長直属の寮運営であつたこと。建学の精神を受けて、寮則とし、寮生心得にし、その中に生活の基本をもちこみ、寮生が実践することで、目標となる「心を育てる、人づくり」に迫ろうと力をいれてきました。「為せば成る」、「努力には花が咲き、実を結ぶ」という先生がモットー

とされていたことも、寮生にも根付いてきたところ です。

教育一筋に、力強く生きてこられ、遂行された多くの偉業、校舎建築と並行しての、学生寮の増改築と、無から有へ、並以上の御努力と御配慮で、諸設備も年毎に整い、寮生活も一段と充実し、今日のようになつてまいりました。

先生は、たえず、舎監や寮生に、生きる希望とよろこび、生きる尊さを、身をもつて指導されていきました。お住まいも、寮生の出入りの見えるところ、声の聞けるところで生活され、住宅から、学長室のあいだでも、寮生のひとりひとりに、制服着用のこと、挨拶のしかた、生活内容のことなど、細部にわたつて話しかけられていました。寮生大会では、時間前に必ず出席され、備品の配置や使用状況、寮生の行動まで細かい指摘もいただけていました。寮のことには学生の日々の生活がかかわっているということで、不都合なことは何よりも優先して処理いただきました。特に食事に関すること、特別宿泊者としての司書講習生、高校受験生などには最上の便宜をはかるよう配慮されていきました。

先生は休日、深夜といえど常に学長室に在室され、いつでも、誰とでも応接され、適確な示唆をくださいました。御高齢でありながらも「わしの前では歳のことはいふなよ」と仕事については気迫のこもつた回答がいつも返つていました。

備品の購入や管理についても記録されている如く「どこの倉庫に何がいくらあるからそれを使いなさい」と備品がどれだけ、どこに収納されているか、正確に整理記憶されておられました。購入した備品は充分使用し、別に活用のできるものは倉庫に保管するという、人も物も大事にされ、正確、寛大に掌握できた良き経営者であると気づ

三、学園運営の寛と厳

かせていただきました。

先生は学園の創立者として、永年にわたり教育に対する情熱を燃やしつづけられ、強い信念で多くの御教示を賜りました。いつまでも胸の中に生き続けてください。先生の残された教えを守って常に前向きな姿勢で人生を正しく強く生きていきたいと思っています。今後も学園の発展、寮生の生活指導に全力をつくすことを決意いたしております。先生の御冥福を心よりお祈りいたします。